

## 令和4年度 学校評価 自己評価書(二学期)

## 1 学校の重点目標

(1) キャリア教育の充実
(2) 確かな学力の定着
(3) 心に届く生徒指導
(4) 健康・体力向上の推進
(5) 特別支援教育の充実
(6) 人権教育の充実
(7) GIGAスクールを踏まえたカリキュラム・マネジメント
(8) 信頼される学校づくりと業務改善の推進
(9) 小・中の連携の充実

## 2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策	
力の 確かな 学力の 定着	1 各種調査による学力の実態把握	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを使った個別最適な学びに取り組み始めている。実践を共有することが必要である。</li> <li>Web問題の取組を職員室の一覧表にチェックすることで、進捗状況を確認できた。</li> </ul>	
	2 「WEB システム」の評価問題の実施	3.0		
	3 個別最適な学びの取組	3.0		
	4 授業の振り返りの活動	3.2		
生徒 心に 届く 指導	1 積極的生徒指導の実践	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回アンケートを実施することで、生徒の悩みやいじめの早期把握ができた。</li> <li>不登校対策委員会では、ケース会議を行い、個別に必要な支援を検討している。</li> </ul>	
	2 いじめの未然防止や早期認知	3.4		
	3 特別活動の工夫	3.0		
	4 不登校・不登校傾向生徒への支援	3.3		
向上 健康・ 体力 の 推進	1 基本的な感染症予防の実践	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症に対してはマスク着用の指導やCO<sub>2</sub>モニターを活用した換気ができている。</li> <li>う歯の治療状況についての確認を行うことで、病院受診を促した。</li> </ul>	
	2 体力等の向上	3.1		
	3 生徒の安全意識の向上に関する取組	3.2		
	4 SSTの授業の実施	3.3		
教育の 特別 支援 の 充実	1 個別の支援計画・指導計画の作成と活用	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育校内委員会を行い、支援を要する生徒への配慮の状況や課題について検討した。</li> </ul>	
	2 チームによる支援体制の確立	2.9		
	3 SCや相談員、関係機関との連携	3.1		
の 人権 教育 の 充実	1 Momを踏まえた生徒理解	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で道徳の授業を行うことが定着し、生徒も意欲的に取り組む姿がみられる。</li> <li>生徒・職員の人権意識を高めるために、人権教室や人権・同和教育に関する校内研修を行った。</li> </ul>	
	2 学校全体での道徳の授業の実践	3.4		
	3 言葉の重みへの意識の向上	3.1		
	4 よさに着目した生徒理解	3.1		
マ ネ ジ メ ン ト	1 指導と評価の一体化	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの持ち帰りや校内で常時使えるようになったことで、生徒がタブレットを活用する授業を行う機会が増えた。SSOのサインイン時のトラブルは時間をずらすことで改善していく。</li> </ul>	
	2 GIGAスクールに必要な技能の習得	3.2		
	3 授業における生徒のタブレット活用	3.2		
学 校 づ く り	1 勤務時間を意識した業務改善	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種通信による情報発信は、保護者アンケートからも高い評価を得ている。</li> <li>生徒会美化部の環境コンクールの取組を行うことで、クラスの設営の更新がなされた。</li> </ul>	
	2 服務規律の厳正確保	3.4		
	3 保護者や地域への情報の発信	3.4		
	4 校内の設営の工夫及び整理整頓	3.2		
連 携	小 中	1 小中間の情報交換や共通実践事項の実践	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中連携共通実践事項で取り組んだ内容を教科部会等で共有できた。</li> </ul>

※ 職員の評価は、学校全体の取組を4段階で評価し、その平均値を示している。

## 3 次学期に向けての取組

- ルールメイキング委員会の報告を受けて、校内の決まりを見直した。今後も、生徒による学校生活の見つめ直しを継続していく。
- タブレット端末を使った授業が増えてきたので、授業改善の手立てとして効果的に活用するために、来年度の単元計画に位置付けることが必要である。
- 人権・同和教育について、指導主事を招聘して校内研修を行ったので、Momを踏まえた生徒理解を深めるとともに、不登校傾向が認められる生徒についてもチームで対応していく。